

## サントリーグループのサステナビリティ トップコミットメント

生命の輝きに満ちた持続可能な社会を  
次の世代に引き継ぐことを約束します。

サントリーホールディングス株式会社  
代表取締役社長

新浪剛史



サントリーグループは「人と自然と響きあう」を企業理念に掲げ、創業以来、お客様に最高品質の商品・サービスをお届けすることで人々の豊かな生活文化の創造に貢献すると同時に、多様な社会や美しい地球環境との共生を実現することを自らの使命として歩んできました。

気候変動に伴う地球温暖化や生物多様性の喪失、サプライチェーンに関わる人々の人権尊重など、環境・社会問題は地球や人類の未来にとって目を逸らすことの出来ない課題であり、企業の果たすべき役割もますます重要になっています。サントリーグループでは、このようなサステナビリティへの取り組みを最重要経営戦略として推進していきます。昨年には、従来からあった「コーポレートサステナビリティ推進本部」を「サステナビリティ経営推進本部」と改組し、取り組みを加速させています。

サントリーグループは2019年に「サステナビリティ・ビジョン」を制定し、7つの重点テーマ「水」「CO<sub>2</sub>」「原料」「容器・包装」「健康」「人権」「生活文化」を掲げ、サステナビリティ経営を推進しています。なかでも、「水と生きる」を社会との約束に掲げる企業として水のサステナビリティ、喫緊の課題である温室効果ガス（GHG）削減やプラスチック問題には、世の中に先駆けた取り組みで世界をリードしていく責務があると考えています。

特に「水」の取り組みは、自然の恵みを製品としてお届けしているサントリーの最も重要な課題と認識しています。サントリーグループでは「水」をどう捉え、どう向き合っていくべきかという「水理念」を策定し、全グループで共有して取り組みを進めてきました。生産拠点の水使用量の継続的な削減はもちろん、水源涵養活動や水リスク評価に基づいた水サステナビリティ活動の推進に取り組んでいます。水源涵養機能の向上を目的とした日本の「天然水の森」活動では、生物多様性豊かな森づくりを通じ、国内工場で汲み上げる地下水量の2倍以上の水を涵養しています。事業活動を展開する世界各地においても、地域と連携した水源涵養活動を展開しており、2030年には全世界の自社工場の半数以上でウォーターポジティブを目指しています。また、日本で始めた次世代環境教育「水育」活動をベトナム、タイ、インドネシアにも拡大し、昨年は中国、2022年にはスペインでも開始しました。

GHG排出削減取り組みにおいては、2050年までにバリューチェーン全体でGHG排出の実質ゼロを目指すことをビジョンに掲げ、2030年までに「自社拠点でのGHG排出量を50%削減」「バリューチェーン全体で30%削減」を目標としています。これは世界の気温上昇を1.5℃以内に抑えるためのチャレンジングな目標ですが、「やってみなはれ」精神のもと、購入電力の再生可能エネルギー由来への切り替えや内部炭素価格の運用による設備投資促進など、大胆かつイノベティブに取り組んでいます。

プラスチックにおいては、2030年までにグローバルで使用するペットボトルの素材をすべてサステナブルなものとし、化石由来原料の新規使用をゼロにすることを目指しています。サントリーグループでは、使用済みペットボトルを再生して新たなボトルを作る「ボトルtoボトル」水平リサイクルの実用化と推進に長年取り組んできました。また、昨年には植物由来原料100%使用ペットボトルの開発にも成功しました。プラスチック製容器包装が有用な機能を保持しつつも、地球環境へネガティブな影響を与えないよう、今後も革新的な技術開発への挑戦と、多様なステークホルダーと問題解決に向けた取り組みを推進し、循環型社会の実現に大きく貢献していきたいと考えています。

私たちサントリーグループは、サステナビリティを経営の中核にすえ、お客様をはじめとするステークホルダーの皆様のお声に耳を傾けながら、持続可能な社会に貢献する最高品質の商品・サービスをお届けし、グローバルに成長を続ける総合酒類食品企業として、更なる革新と挑戦を続け、生命の輝きに満ちた持続可能な社会を次の世代に引き継ぐことを約束します。

2022年6月  
サントリーホールディングス株式会社  
代表取締役社長  
新浪 剛史